

沿革

| | | | |
|---------------------|--|---------------------|---|
| 1912 11月 | 東京帝国大学井口在屋博士が主幹、畠山一清が所長となり、みのくち式機械事務所を創業。 | 1994 10月 | 荏原インフィルコ株式会社を吸収合併。 |
| 1920 5月 | 会社設立とともに工場を東京府荏原郡品川町南品川に設け、みのくち式機械事務所の事業を継承し、渦巻ポンプ等の製造を開始。 荏原製作所の名称は当時の地名(東京府荏原郡)に由来する。 | 2000 4月 | 汎用風水力機械の営業部門を分離の上、荏原サービス株式会社に統合し、荏原テクノサーブ株式会社として営業開始。 |
| 1938 4月 | 東京市蒲田区羽田に羽田工場を建設し、品川より本社および工場を移転。 | 2000 4月 | コンプレッサ・タービン事業大手のElliott Company (アメリカ) を完全子会社化。 |
| 1941 12月 | 川崎工場を新設。 | 2001 6月 | CMP装置等の生産拠点として設立した株式会社荏原九州が操業を開始。 |
| 1945 4月 | 戦災により羽田工場は、ポンプ試験場、製缶工場および本館を除き使用不能と化したため、川崎工場に生産を移管。 | 2002 4月 | コンプレッサ・タービン事業を分社化、株式会社荏原エリオットを設立。 |
| 1955 1月 | 生産の主力を羽田工場に復帰。 | 2002 6月 | 執行役員制度を導入。 |
| 1956 1月 | 水処理装置の製造および販売を目的として、荏原インフィルコ株式会社を設立。 | 2002 9月 | 冷熱機械事業を分社化、荏原冷熱システム株式会社を設立。 |
| 1964 4月 | 戦後初の海外事務所をバンコックに開設。 | 2003 5月 | 中国におけるAPIポンプの生産販売拠点として、嘉利特荏原泵業有限公司を設立。 |
| 1964 6月 | 製品のアフターサービスを目的として、荏原サービス株式会社を設立。 | 2005 4月 | カンパニー制を導入。本社機能を担うコーポレートと、風水力機械、環境事業、精密・電子事業の3カンパニー体制とする。 |
| 1965 4月 | 藤沢工場新設。日本で初めて標準ポンプ量産体制を確立。また冷凍機生産を羽田工場より移管。 | 2005 8月 | 中国における大型・高圧ポンプの生産販売拠点として、荏原博泵業有限公司を設立。 |
| 1975 1月 | 戦後初の海外生産拠点としてブラジルに Ebara Industrias Mecanicas e Comercio Ltda. を設立。 | 2006 5月 | 中国における汎用ポンプの生産・販売・サービス拠点として、荏原機械(中国) 有限公司を発足。 |
| 1975 11月 | 袖ヶ浦工場を新設し、主としてコンプレッサおよびタービンの製造を開始。 | 2009 4月 | グループ内の水処理事業を荏原エンジニアリングサービス株式会社へ統合。 |
| 1979 12月 | 東南アジアにおける汎用ポンプの生産拠点として、インドネシアにP.T. Ebara Indonesiaを設立。 | 2009 10月 | グループ内の廃棄物処理事業を荏原環境プラント株式会社へ統合。 |
| 1981 1月 | 北米のポンプ事業拠点として、アメリカにEbara International Corp. を設立。 | 2010 1月 | 富津工場を新設し、羽田工場の機能を移転。 |
| 1985 1月 | 川崎工場を藤沢工場に統合し、生産体制の再編成を実施。 | 2010 3月 | 荏原エンジニアリングサービス株式会社(現 水ing株式会社) を、三菱商事株式会社、日揮株式会社との三社提携による総合水事業会社とする。 |
| 1987 7月 | 藤沢工場内に精密機械工場を建設し、半導体産業向け真空機器の生産を開始。 | 2010 10月 | 株式会社荏原九州を吸収合併。 |
| 1989 1月 | ステンレスプレス製汎用ポンプの生産拠点として、イタリアにEbara Italia S.p.A. (現 Ebara Pumps Europe S.p.A.) を設立。 | 2012 4月 | ポンプ事業のグループ内再編として、荏原テクノサーブ株式会社と株式会社荏原由倉ハイドロテック、株式会社荏原環境テクノ北海道の三社を吸収合併。 |
| 1992 8月 | 各種ボイラの生産拠点として、中国に青島荏原環境設備有限公司を設立。 | 2012 11月 | 創業100周年を迎える。 |